栃木県結核・感染症発生動向調査情報

（ｻｰﾍﾞｲﾗﾝｽ）

平成 29 年 **12 月**（週報**第 49 週～第 52 週（12/4～12/31）**）集計の感染症発生動向調査情報に関する「栃木県結核・感染症サーベイランス委員会」の解析評価結果は次のとおりです。

1　感染症解析情報　｛12 月は 4 週間、11 月は 4 週間、前年同期は 4 週間での比較となります。｝

（1）概況

ア. 12 月の報告数は次のとおりです。全数（1～5 類）把握疾病は **28 件**（11 月は **37 件**）でした。
定点把握疾病のうち週報疾病（インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報）は **4,775 件**（定点あたり **20.64 件／週**）であり、11 月の **2,594 件**（定点あたり **13.29 件／週**）と比較し、週あたり **1.55 倍**と大幅に高い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。（定点把握週報疾病）

疾病名	報告数	前月との比較（週あたり比）	前年同期との比較（週あたり比）
インフルエンザ	**2,822 件**（週あたり平均 705.50 件）	↑ **（4.36 倍）** 前月は 647 件（週あたり平均 161.75 件）	⇨ **（0.93 倍）** ＊前年同月は 3,037 件（週あたり平均 759.25 件）
感染性胃腸炎	**951 件**（週あたり平均 237.75 件）	↑ **（1.40 倍）** 前月は 678 件（週あたり平均 169.50 件）	↓ **（0.43 倍）** ＊前年同月は 2,231 件（週あたり平均 557.75 件）
手足口病	**173 件**（週あたり平均 43.25 件）	↓ **（0.44 倍）** 前月は 392 件（週あたり平均 98.00 件）	↑ **（4.94 倍）** ＊前年同月は 35 件（週あたり平均 8.75 件）

① **インフルエンザ**は、前月に比べ報告数が 4.36 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 0.93 倍とほぼ同様の水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.40 倍とかなり高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.43 倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。

③ **手足口病**は、前月に比べ報告数が 0.44 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で4.94倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、やや高い水準で推移しています。

（２）全数（1～5 類）把握疾病情報（全国）

ア.　1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 1,659 件(11 月 1,757 件)、細菌性赤痢 6 件(11 月 11 件)、腸管出血性大腸菌感染症 71 件(11 月 156 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ.　4 類・5 類（上位 6 疾病）

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	426	461
2	侵襲性肺炎球菌感染症	271	282
3	つつが虫病	136	169
4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	112	105
5	後天性免疫不全症候群	96	95
6	アメーバ赤痢	85	80

ウ.　栃木県では次の報告がありました。（計 28 件）

結核 17 件、A 型肝炎 1 件、レジオネラ症 1 件、アメーバ赤痢 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件、急性脳炎 1 件、ジアルジア症 1 件、梅毒 3 件、播種性クリプトコックス症 1 件

２　平成29年における栃木県の感染症の動向（5類定点把握対象疾病分）

（１）　週報疾病について　　※平成30年 1月12日現在の暫定集計値です。

① **インフルエンザ**は、16-17シーズンにおいて、第1週(1/2～1/8)以降報告数が増加し、第5週(1/30～2/5)にピーク（定点当たり報告数24.54）が確認されました。17-18シーズンは、第47週(11/20～11/26)に流行の目安である定点当たり報告数が1.00を超え、前シーズンと比較して約1か月遅く流行入りしました。報告数は前年の0.89倍とやや減少しました。

② **RSウイルス感染症**は、第32週(8/7～8/13)以降報告数が増加し、第36週(9/4～9/10)にピーク（定点当たり報告数3.85）が確認されました。前シーズンと比較し、約1か月早く流行入りしました。年間報告数は前年の1.25倍とかなり増加しました。

③ **咽頭結膜熱**は、第17週(4/24～4/30)以降報告数が増加し、第26週(6/26～7/2)にピーク（定点当たり報告数1.06）が確認されました。年間報告数は前年の1.73倍と大幅に増加しました。

④ **Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、年間を通して発生が見られ、第25週（6/19～6/25）に報告数のピーク（定点当たり報告数2.27）が確認されました。年間報告数は前年の0.84倍とやや減少しました。

⑤ **感染性胃腸炎**は、年間を通して発生が見られ、第49週(12/4～12/10)にピーク（定点当たり報告数6.40）が確認されました。年間報告数は前年の0.65倍とかなり減少しました。

⑥ **水痘**は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の1.28倍とかなり増加しました。

⑦ **手足口病**は、第22週(5/29～6/4) 以降報告数が増加し、第32週(8/7～8/13)にピーク（定点当たり報告数9.56）が確認されました。年間報告数は前年の5.04倍と大幅に増加しました。

⑧ **伝染性紅斑**は、第45週（11/6～11/12）以降報告数が増加し、第49週(12/4～12/10)にピーク（定点当たり報告数0.69）が確認されました。年間報告数は前年の0.19倍と大幅に減少しました。

⑨ **突発性発疹**は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の0.92倍とほぼ同様の水準でした。

⑩ **百日咳**は、年間を通して報告数は3件でした。年間報告数は前年の0.19倍と大幅に減少しました。

⑪ **ヘルパンギーナ**は、第27週(7/3～7/9)以降報告数が増加し、第31週(7/31～8/6)及び第35週(8/28～8/3)に報告数のピーク（定点当たり報告数1.35）が確認されました。年間報告数は前年の0.25倍と大幅に減少しました。

⑫ **流行性耳下腺炎**は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の0.45倍と大幅に減少しました。

⑬ **急性出血性結膜炎**は、年間を通して報告数は1件でした。前年の報告数は6件でした。

⑭ **流行性角結膜炎**は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の0.97倍とほぼ同様の水準でした。

⑮ **細菌性髄膜炎**は、年間を通して報告数は6件でした。前年の報告数は5件でした。

⑯ **無菌性髄膜炎**は、年間を通して報告数が8件でした。前年の報告数は25件でした。

⑰ **マイコプラズマ肺炎**は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の0.59倍とかなり減少しました。

⑱ **クラミジア肺炎(オウム病を除く)**は、年間を通して報告数は2件でした。前年の報告数は8件でした。

⑲ **感染性胃腸炎（ロタウイルス）**は、年間を通して報告数は89件でした。前年の報告数は35件でした。

⑳ **インフルエンザ（入院）**は、第2週(1/9～1/15)に報告数のピーク（定点あたり報告数4.86）が確認されました。年間報告数は前年の0.93倍とほぼ同様の水準でした。

（２）月報疾病について　　※平成 30 年 1 月 12 日現在の暫定集計値です。

① **性器クラミジア感染症**は、年間を通して報告数は 378 件(男性 273 件、女性 105 件)でした。前年と比較して男性は 1.36 倍とかなり増加、女性は 1.06 倍とほぼ同様の水準でした。

② **性器ヘルペスウイルス感染症**は、年間を通して報告数は 91 件(男性 36 件、女性 55 件)でした。前年と比較して、男性は 1.16 倍、女性は 1.20 倍、男性、女性ともにやや増加しました。

③ **尖圭コンジローマ**は、年間を通して報告数は 114 件(男性 79 件、女性 35 件)でした。前年と比較して、男性は 0.89 倍、女性は 1.09 倍と、男性、女性ともにほぼ同様の水準でした。

④ **淋菌感染症**は、年間を通して報告数は 158 件(男性 150 件、女性 8 件)でした。前年と比較して、男性は 1.46 倍とかなり増加、女性は 1.14 倍とやや増加しました。

⑤ **メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症**は、年間を通して報告数は 271 件でした。前年と比較して、1.34 倍とやや増加しました。

⑥ **ペニシリン耐性肺炎球菌感染症**は、年間を通して報告はありませんでした。前年は 1 件でした。

⑦ **薬剤耐性緑膿菌感染症**は、年間を通して報告はありませんでした。前年も 0 件でした。

３　平成 29 年における栃木県の感染症の動向（全数把握対象疾病分）

※平成 30 年 1 月 12 日現在の暫定集計値です。

（１）1～3 類疾病について

① **結核**は、全国 22,806 件のうち、292 件（前年 322 件）の報告がありました。

② **細菌性赤痢**は、全国 141 件のうち、2 件（前年 3 件）の報告がありました。

③ **腸管出血性大腸菌感染症**は、全国 3,890 件のうち、44 件（前年 36 件）の報告がありました。

その他の疾病の報告はありませんでした。

（２）4 類及び 5 類疾病について

① **E 型肝炎**は、全国 303 件のうち、1 件（前年 8 件）の報告がありました。

② **A 型肝炎**は、全国 282 件のうち、2 件（前年 3 件）の報告がありました。

③ **デング熱**は、全国 245 件のうち、3 件（前年 4 件）の報告がありました。

④ **マラリア**は、全国 61 件のうち、1 件（前年 0 件）の報告がありました。

⑤ **レジオネラ症**は、全国 1,722 件のうち、39 件(前年 34 件)の報告がありました。

⑥ **アメーバ赤痢**は全国 1,077 件のうち、19 件（前年 14 件）の報告がありました。

⑦ **ウイルス性肝炎**は、全国 289 件のうち、4 件（前年 1 件）の報告がありました。

⑧ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**は、全国 1,634 件のうち、14 件（前年 11 件）の報告がありました。

⑨ **急性脳炎**は、全国 688 件のうち、10 件（前年 20 件）の報告がありました。

⑩ **クロイツフェルト・ヤコブ病**は、全国で 198 件のうち、3 件（前年 2 件）の報告がありました。

⑪ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**は、573 件のうち、7 件（前年 5 件）の報告がありました。

⑫ **後天性免疫不全症候群**は、全国 1,374 件のうち、13 件（前年 9 件）の報告がありました。

⑬ **ジアルジア症**は、全国 60 件のうち、2 件（前年 0 件）の報告がありました。

⑭ **侵襲性インフルエンザ菌感染症**は、全国 370 件のうち、4 件（前年 1 件）の報告がありました。

⑮ **侵襲性肺炎球菌感染症**は、全国 3,145 件のうち、30 件（前年 30 件）の報告がありました。

⑯ **水痘（入院例）**は、全国 309 件のうち、3 件（前年 5 件）の報告がありました。

⑰ **梅毒**は、全国 5,770 件のうち、58 件（前年 44 件）の報告がありました。

⑱ **播種性クリプトコックス症**は、全国 134 件のうち、1 件（前年 3 件）の報告がありました。

⑲ **破傷風**は、全国 124 件のうち、2 件（前年 2 件）の報告がありました。

⑳ **風しん**は、全国 93 件のうち、1 件（前年 1 件）の報告がありました。

その他の疾病の報告はありませんでした。

4　疾病の予防解説

冬季に多く発生する感染症には、インフルエンザ、感染性胃腸炎などがあります。これらの感染症は、手洗いなどによる予防が有効です。日頃から、バランスの良い食事や十分な休養を心がけ、症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	原因と潜伏期間	症状や特徴	予防対策
インフルエンザ	インフルエンザウイルス 1～3 日間	38℃以上の発熱と、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻水、咳など一般的な風邪と同じような症状も見られます。 感染経路は、咳などで飛び散ったウイルスを吸い込んで感染する（飛沫感染）ほか、ウイルスが付着したドアノブなどに触れて感染する（接触感染）場合などがあります。 例年１月～３月頃にかけて患者数が増加する傾向が見られます。	石けんによる手洗いや、手指消毒が重要です。室内では、加湿器などで適度な湿度（50～60%）を保つことも効果があります。流行時期は人ごみを避け、外出時はマスクを着用しましょう。咳などの症状のある方はマスクを着用しましょう。症状がある場合、早めに医療機関を受診しましょう。解熱後もウイルスを排出し他の人に感染させる可能性があるため、注意しましょう。インフルエンザワクチンは、重症化防止に有効とされています。
感染性胃腸炎	ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルスなど 1～2 日間	主な症状として、激しい吐き気やおう吐、腹痛、下痢、発熱などが現れます。 一般に 2～3 日で軽快しますが、乳幼児や高齢者などでは重症化し、脱水症状などを起こす場合もあります。 治療は、水分補給などの対症療法が中心となります。また、下痢等の症状消失後もウイルスの排出が１週間程度続くと言われています。	普段から手洗い、うがいをしましょう。ノロウイルスは、食品の中心温度を85℃～90℃で 90 秒以上加熱をすることにより感染力がなくなります。おう吐物などの処理は、使い捨てのマスク・手袋等を着用し、しっかりとふき取り、ビニール袋に入れて密封し捨てましょう。おう吐物などがあった場所を次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。

（参考）国立感染症研究所　ホームページ　　http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html
厚生労働省 ホームページ　　http://www.mhlw.go.jp/

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

5　その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、12 月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第 49 週 (12/4～12/10)	第 50 週 (12/11～12/17)	第 51 週 (12/18～12/24)	第 52 週 (12/25～12/31)
インフルエンザ	【注意報】 県南	【注意報】 県南	【注意報】 県南、県北 県全体	【注意報】 県西、県南、 県北、安足 県全体
伝染性紅斑	【警報】 県西	【警報】 県西		

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位１%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。